

I 実践

1 研究主題

差別や偏見をなくし、思いやりと助け合いの心をもって行動できる児童の育成

————— 「いじめ0（ゼロ）運動」を通して —————

（1） 主題設定の理由

3. 1 1の東日本大震災で、校庭や校舎に大きな被害を受けた本校は、1学期は3か所に、2学期からは2か所に分かれ、「分散型学校」という特殊な環境の中での教育活動を余儀なくされている。そのために、運動会をはじめ、全校で取り組んできたいろいろな行事や活動の実施が制限されることとなったが、本校児童にとって欠かすことのできない重要な教育活動の一つである「いじめ0（ゼロ）運動」は、本年度も実施されることとなった。

今年度の本校の重点目標は、「すべての教育活動を通して、セルフエスティーム・自己肯定感の育成に努める」である。セルフエスティームの低下は、不登校・社会的孤立・引きこもり・反社会的行動などさまざまな問題を引き起こす原因となっている。セルフエスティームを育てるためには、人間関係の中で認められること、褒められること、居場所があることが必要である。逆に、無視や仲間外れ、悪口などの「いじめ」で、子どもたちは傷つき、自信や意欲を喪失し、セルフエスティームを大きく低下させることになる。したがって、この「いじめ0（ゼロ）運動」は、すべての子どもたちの人権を守り、セルフエスティームの育成につながる大変意義のある取り組みであると考え、本主題を設定した。

（2） 研究の内容

ア 集会活動（いじめ0運動）

イ 職員研修（子どもの人権を守る・セルフエスティームを育てる）

2 実践内容

（1） 「いじめ0運動」の取り組み

ア 家庭で話し合いをし、『めばえノート』に親子で記入する。

イ 家庭で話し合ったことを学級でまとめる。（学級活動・道徳など）

（ア）『めばえノート』や『心のノート』を活用してまとめる。

（イ）学級で話し合い、自分から「いじめ0」の宣誓書にサインする。

（ウ）サインと同時に担任より、「いじめ0」シールを胸章にはってもらう。

ウ 「いじめ0（ゼロ）集会」（児童集会）で、各学級で話し合ったことを発表する。

エ 集会後、分かったことや感じたこと、自分の決意などを『めばえノート』や『心のノート』に記入し、保護者にも読んでもらう。家庭で話し合ったことや学級での話し合いがどのようにまとめられたのか、子ども自身のことばや文章で伝えられるようにする。

オ 保護者からも、ノートを読んだ感想やわが子への願いなどを記入してもらう。

カ 学校だより、学年だより、生徒指導だより（はまぎく）などで、「いじめ0（ゼロ）運動」の取り組みのようすを知らせ、理解啓発を図る。

